

【短報】本州におけるコケシトガリハネカクシの記録



図1. 神奈川県産コケシトガリハネカクシ *Medon tomokoae*.

コケシトガリハネカクシ *Medon tomokoae* Shibata & Fujimoto, 2017 は、四国から記載された潮間帯性のアリガタハネカクシ亜科トガリハネカクシ属の一種である。細長く扁平な体型や淡い体色、頭頂部に dark tentorial maculae が認められることなどを特徴とする (Shibata & Fujimoto, 2017)。

本種は現在までに、タイプ産地を含む香川県内の瀬戸内海沿岸からの採集例のみが知られていたと思われるが、筆者は以下のように本州神奈川県太平洋沿岸において本種を採集しているので報告する。同定には原記載

を参照した。

1♂ (図1-3), 神奈川県小田原市東町山王海岸, 25. III. 2018, 筆者採集・保管。

採集地は相模湾岸の酒匂川河口西側に位置する海岸である。上記の個体は波打際の石の下から見出された。

なお、原記載によれば本種はタイプ産地やその周辺地域において、径5-10 mmの中礫からなる礫

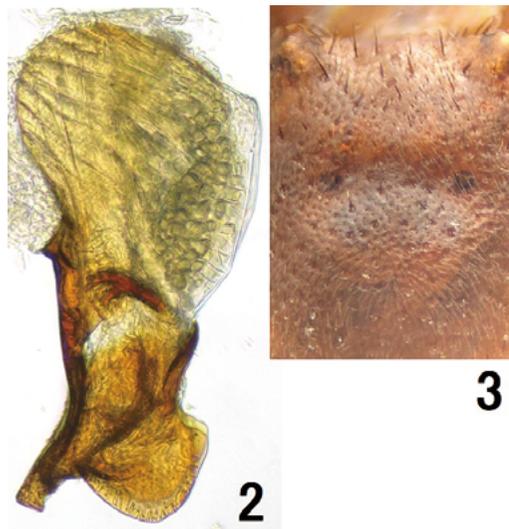


図2. 雄交尾器側面；図3. 頭頂部。

浜から採集されているが (Shibata & Fujimoto, 2017), 上記の山王海岸の潮間帯部分は、そのほとんどが径2 mm以下の砂からなる砂浜であった。本種の後翅は細く短く (Shibata & Fujimoto, 2017), 飛翔能力はないようであるが、後翅の退化した潮間帯性種のオオズウミハネカクシ *Liparocephalus tokunagai* Sakaguti, 1944 では生息地周辺の砂浜に漂着した例が知られていることから (辻, 2017), 上記の採集地が本種本来の生息環境ではなかったとすれば、この採集例も、別の場所に生息していた個体が波によって流されてきたものである可能性が考えられる。

引用文献

Shibata, Y. & H. Fujimoto, 2017. A new intertidal species of the genus *Medon* (Coleoptera, Staphylinidae, Paederinae) from Kagawa, Japan. *Elytra*, New Series, 7 (1): 55-60.

辻 尚道, 2017. 福岡県からのオオズウミハネカクシの記録. さやばねニューシリーズ, (25): 46.

(齋藤 理 223-0062 横浜市港北区日吉本町

5-31-11)

【短報】対馬で採集したシギゾウムシ類の記録

対馬のシギゾウムシ類の分布記録は少なく、たとえば対馬の生物相をまとめた大著「対馬の生物」の昆虫目録 (白水・宮田, 1976) 中には、シギゾウムシ族の種は一種も記録されていない。筆者らは、対馬でゾウムシ類の分布調査を行う機会を何度か得ている。このうち、シギゾウムシ族について対馬新記録と思われるものや記録が少ないと思われる種を採集しているので、記録を報告する。

採集地の地名のうち「長崎県対馬市 (2004年3月以前は上県郡, 下県郡)」は省略し、地名で示した。採集者名は、野津採集のものはN, 藤本採集のものはF, 島村採集のものはSと略記し、それ以外についてはラベルに付されている採集者名のまま記した。各種の和名の後に付いた※印は、対馬未記録種と思われる種である。

採集記録

ツシマシギゾウムシ *Labaninus tsushimensis* Notsu, 1987

1 ex. (写真), 峰町三根・ユクミ, 16. V. 1999, F Notsu (1987) によって記載された種で、記載後の記録はない。シイ類の咲きかけた花のスウィーピングで得た。